

# 「携帯電話位置情報を活用した京都における国内観光客の人流分析」 令和7年度研究結果概要

---

2026年4月27日

京都商工会議所  
ソフトバンク株式会社  
国立大学法人長崎大学

※本調査では信頼性が高いと判断したデータに基づき分析を行っていますが、確実性を保証するものではありません。  
※本調査報告書の記載内容は予告なく変更される場合があります。

# 調査研究の概要

## 調査の趣旨

近年、京都においては、オーバーツーリズムが社会的課題として指摘される中、「日本人の京都離れ」といった国内観光客の減少を懸念する声が高まっているものの、定量的なデータに基づく分析が不十分だった。

本調査では、ソフトバンク株式会社が保有する携帯電話位置情報に基づく「人流データ」を活用し、居住地別にみた国内観光客の京都における行動実態や現状を明らかにするとともに、今後の観光施策等への活用を目的とする。

## 調査方法

- ・ソフトバンク株式会社の基地局をもとにした携帯電話の位置情報（※）を活用。
- ・分析する地域の位置情報を4つの区分に分類し、携帯電話使用者の「常住地（居住地）」と「通勤通学地」を推定。  
⇒分析地域において、常住地および従業地・通学地のどちらでもない人口を「象限C推定人口」と定義。  
⇒この人口を「観光客」として分析。

※個人が特定できないように統計処理されたものを利用



位置情報を分類



	京都市に常住	京都市以外に常住
京都市に通勤通学	A	B
京都市以外に通勤通学	D	<b>C</b>

=観光客

## 調査対象地域

- ・観光客の常住地：北海道・東北、北関東、**首都圏**、甲信越、東海、北陸、**近畿**、中国・四国、九州・沖縄
- ・観光地：①京都駅周辺（北側）、②京都駅周辺（南側）、③嵐山、④金閣寺周辺、⑤祇園・八坂神社周辺、⑥四条烏丸、⑦四条河原町、⑧清水寺周辺、⑨伏見稻荷周辺、⑩伏見酒蔵周辺、⑪高雄、⑫大原

⇒本調査では主に遠方からの観光客を「**首都圏常住者**」、近隣からの観光客を「**近畿常住者**」に焦点を当て分析

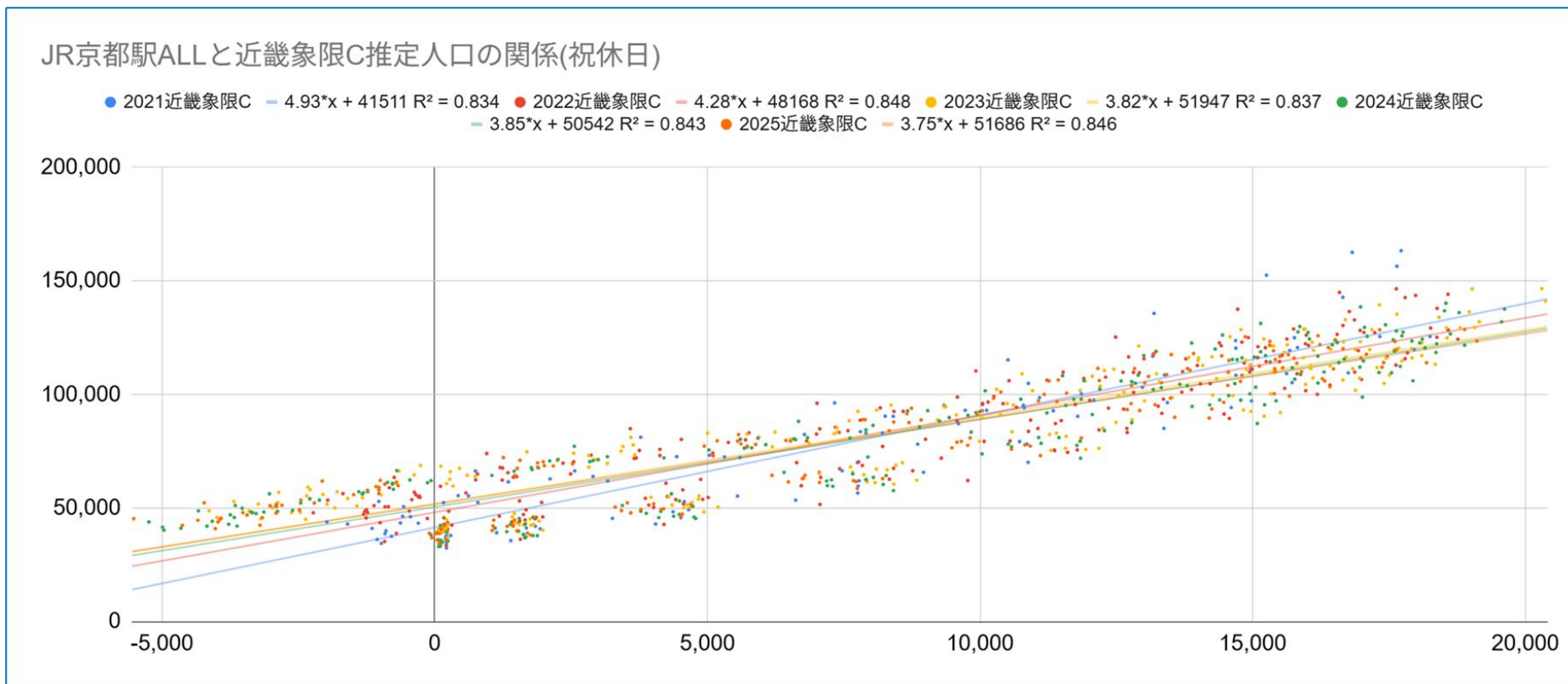
# ソフトバンクの位置情報の信頼性

ソフトバンクの位置情報を元にした国内観光客の拡大推計値とJR西日本の利用者データを掛け合わせ回帰分析を行ったところ相関性が高い結果となった。

⇒ ソフトバンクの位置情報データ (※) の信頼性が高いことがわかり実態を評価するデータに利用可能

※個人が特定できないように統計処理されたものを利用

ソフトバンク保有の象限C推定人口



JR京都駅の推定観光客数  
(総出場者－総入場者)

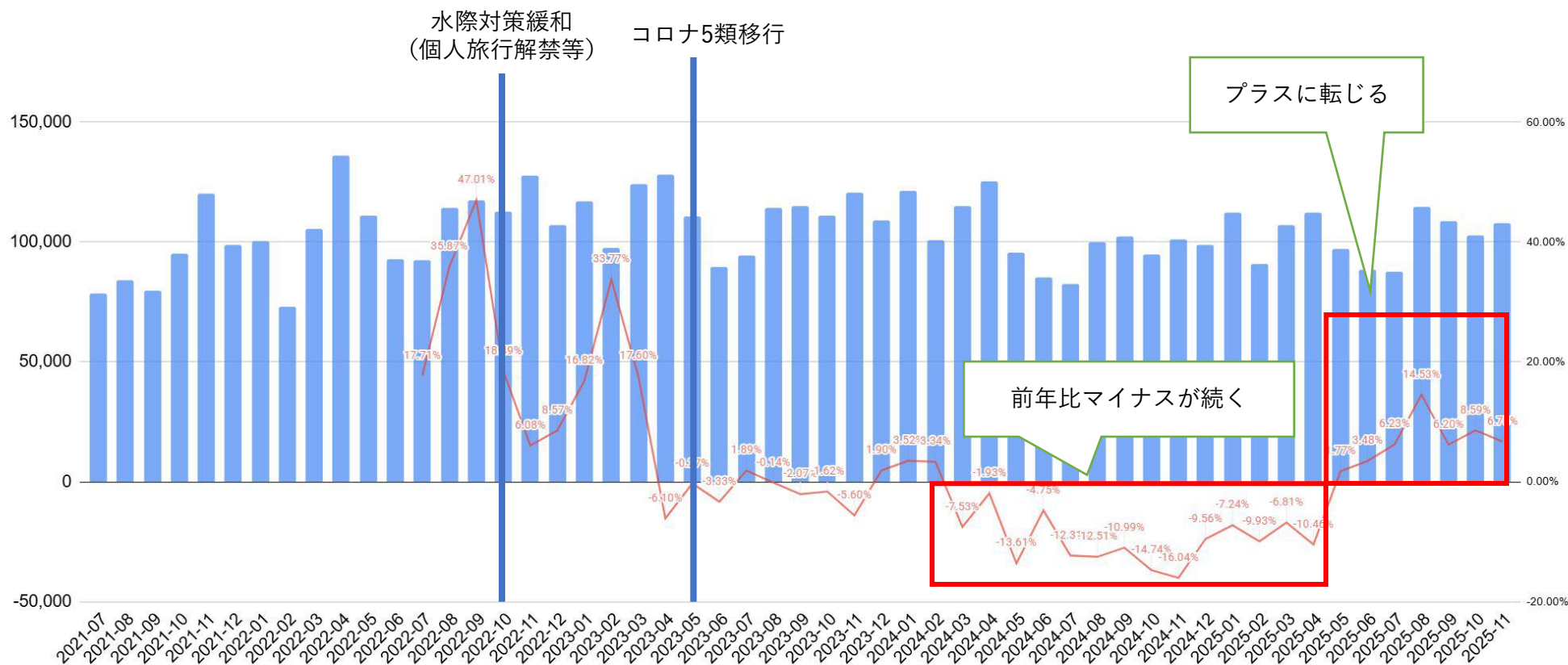
※JR西日本より改札データ提供

# 国内観光客の推移

2021～2022年頃はコロナ禍の影響から「全国旅行支援」などの観光支援事業が相次いで実施されたことから国内観光客が増加。

2023年4月頃から前年比は横ばいから小幅なマイナスで推移していたが、2024年に入りマイナスが拡大し、2025年5月頃からは一転して前年比プラスとなり回復傾向となる。

## 京都市における一日あたりの象限C推定人口の推移



# 国内観光客の推移（常住地別比較）

観光客の推移を首都圏常住者（遠距離）と近畿常住者（近距離）に区分し、比較

## ■首都圏

- ・2024年2月頃までは前年比は概ね横ばいから小幅な増減の範囲で推移していたが、それ以降は2025年4月頃まで前年比マイナスが続く。
  - ・2025年5月以降はプラスに転じ回復傾向。
- ⇒観光客の低迷が大きく2024年は前年比20%減の月が増加。

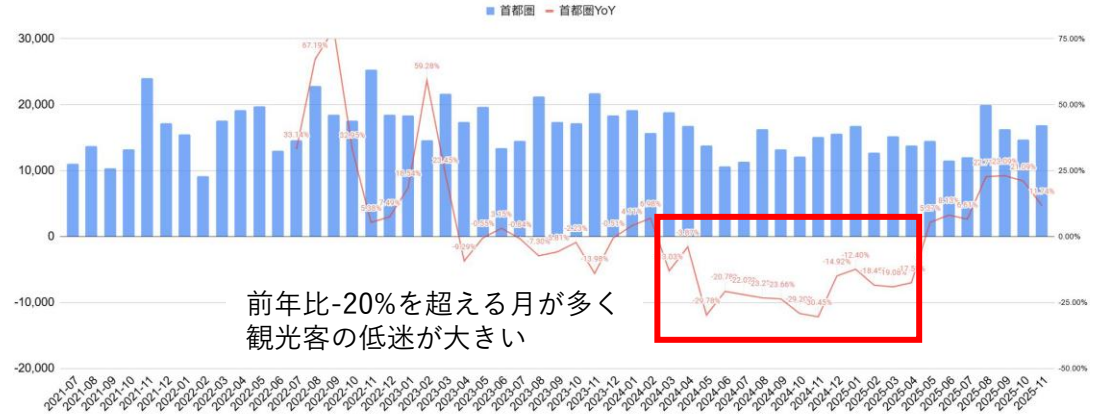
## ■近畿

- ・月によりばらつきは見られるものの2024年6月頃までは小幅な増減または横ばいで推移。以降は首都圏と同様にマイナスに転じる。
  - ・2025年5月頃よりプラスに転じ回復傾向。
- ⇒下げ幅は最大でも8%程度と首都圏ほどの落ち込みは見られない。

- 首都圏からの観光客の減少が顕著
- 近畿は首都圏に比べ減少幅は軽微

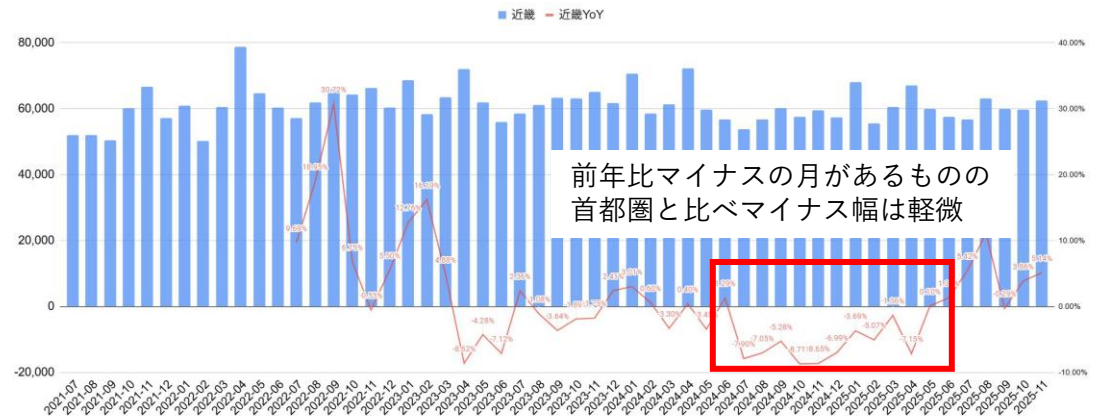
## 首都圏

京都市時間平均象限C推定人口 首都圏とYoY



## 近畿

京都市時間平均象限C推定人口 近畿



# 国内観光客の推移（常住地別比較）

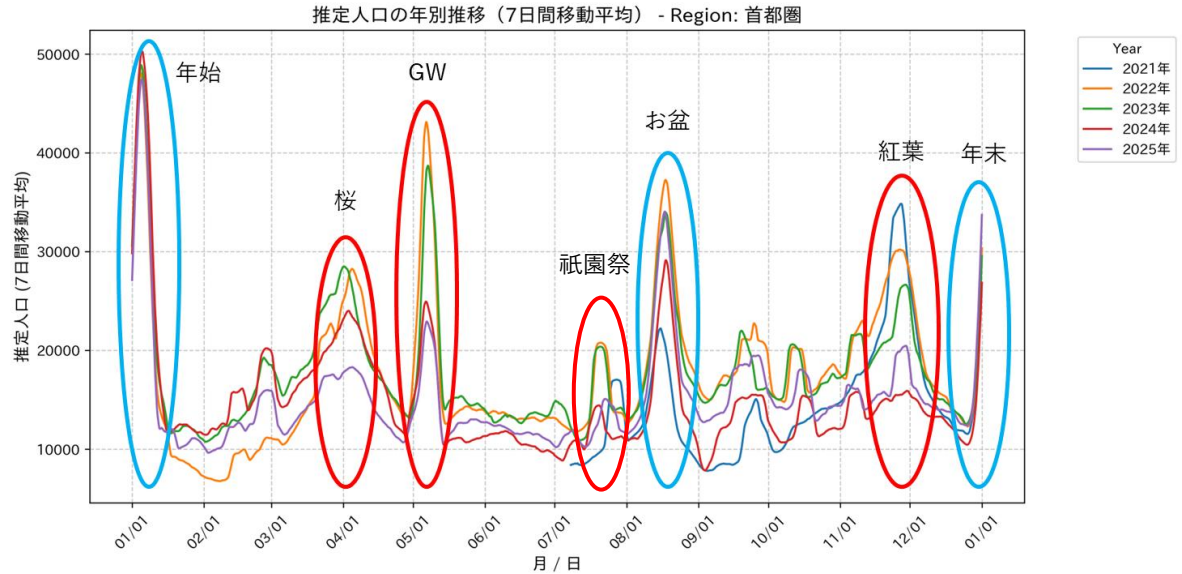
## 首都圏常住者

同じ時期で年ごとに比較

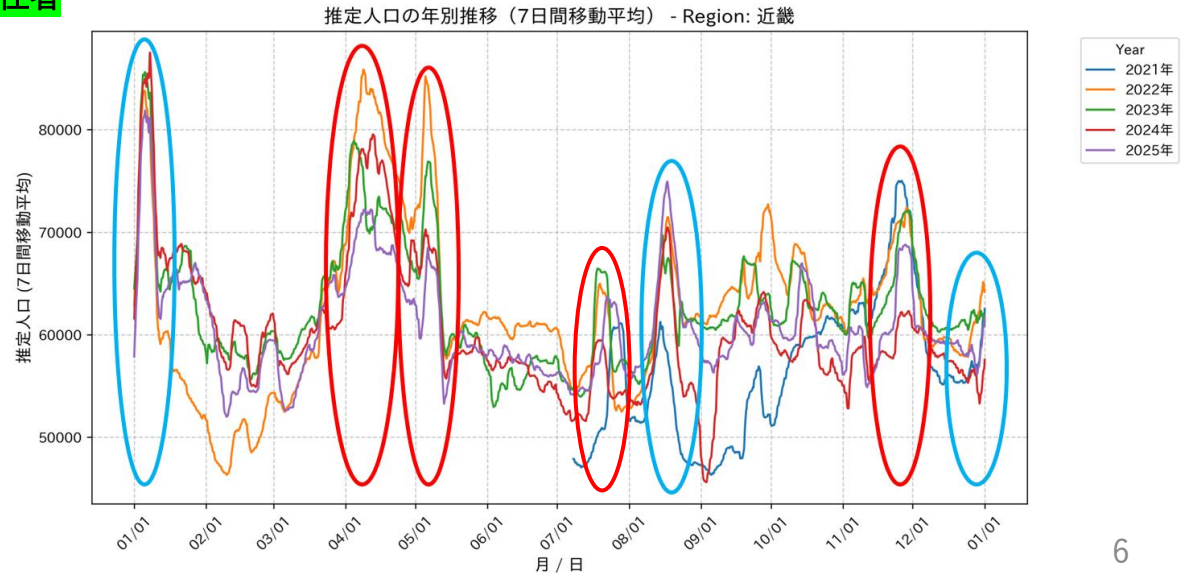
- 2024年頃から主要な観光シーズン（桜時期、GW、祇園祭期間、紅葉時期）においてもピークが立たない月が目立つようになっている

- お盆や年末年始の帰省シーズンについては大きな変化はなし

○ 観光客自らがピーク時を回避して観光している可能性がある



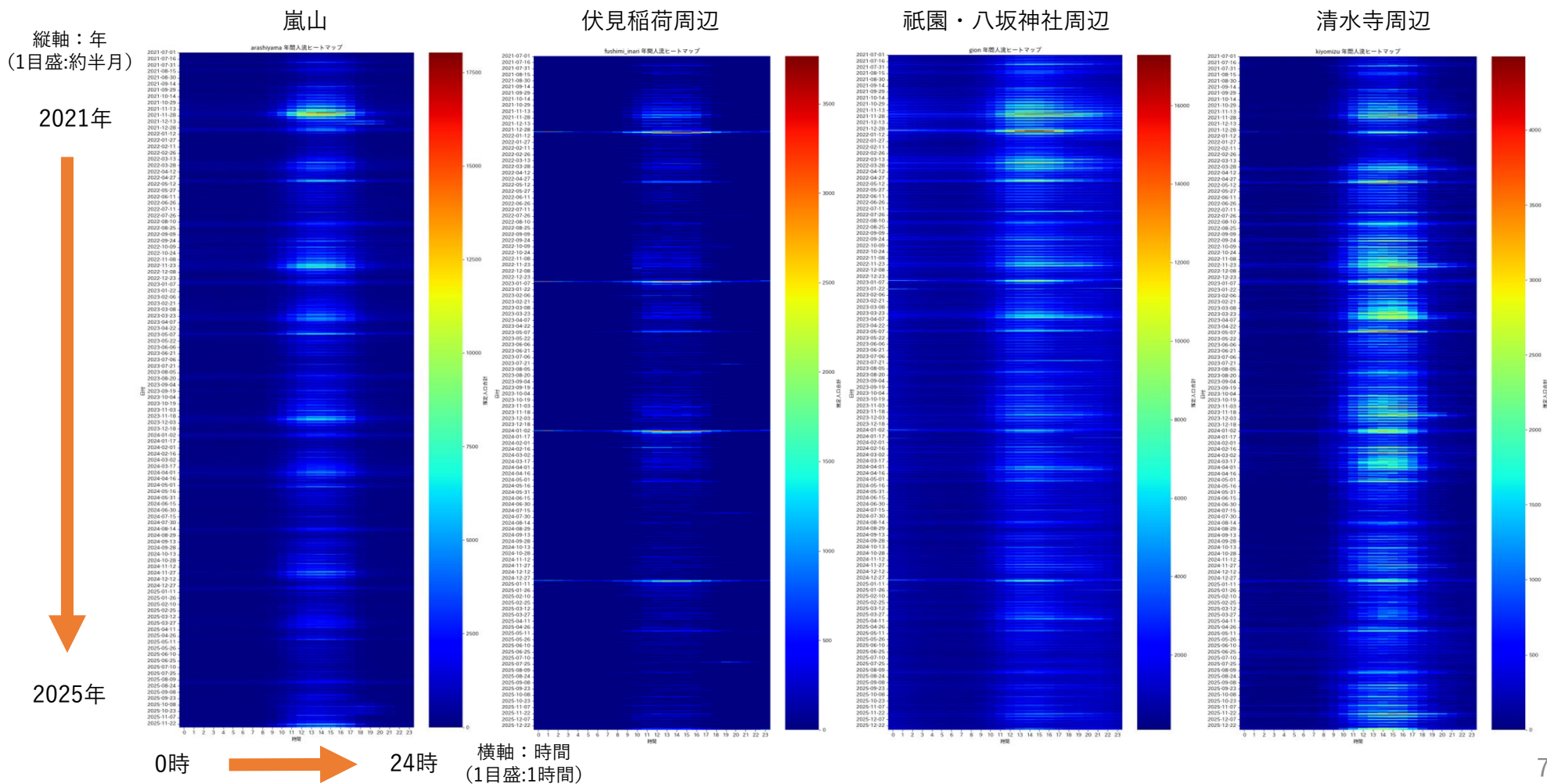
## 近畿常住者



# 観光地別の人口変化（主要観光地）

下記のとおりヒートマップを作成し、各観光地（エリア）別の人口変化を可視化。

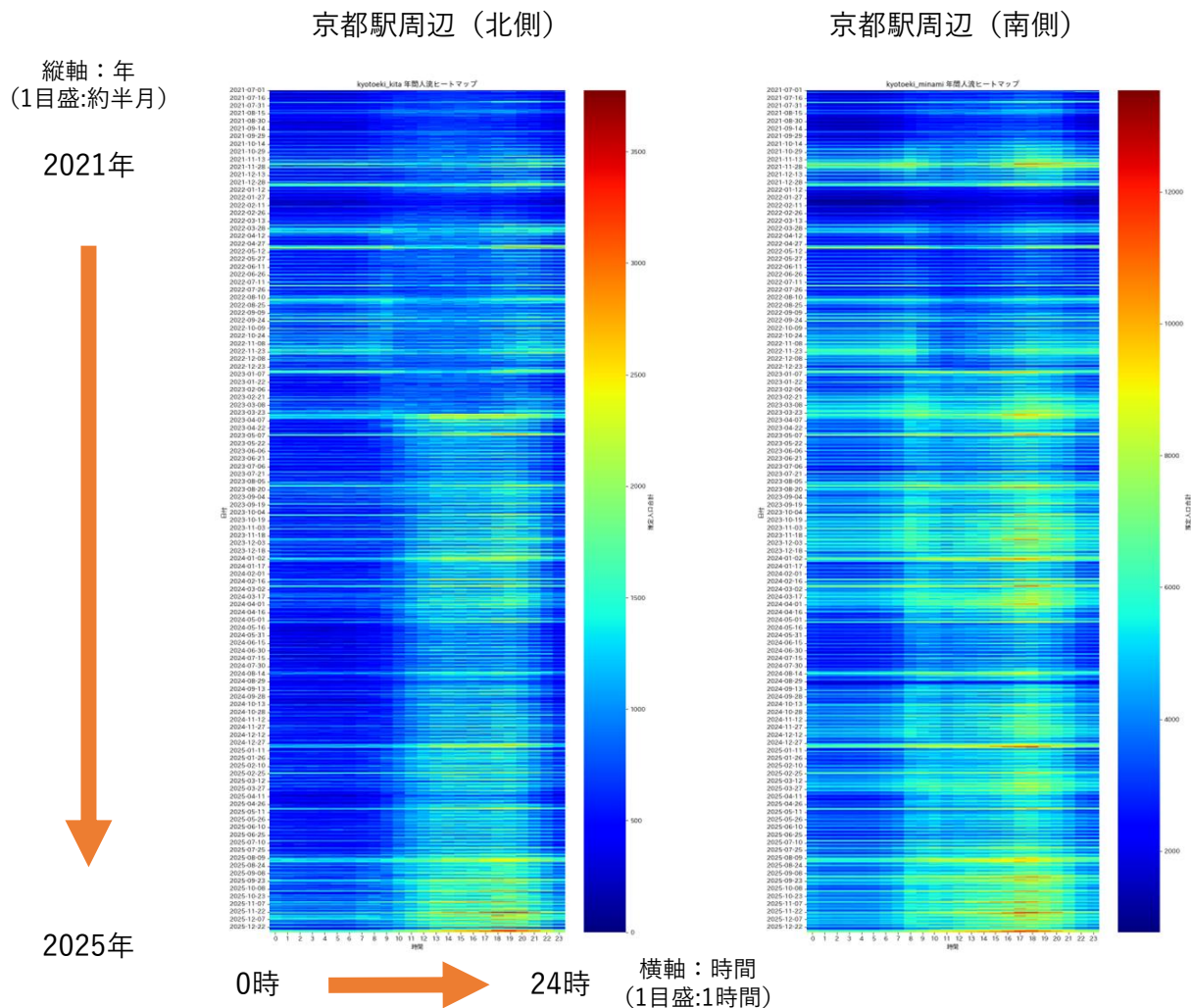
嵐山、伏見稲荷周辺、祇園・八坂神社周辺、清水寺周辺などは経年で来訪者が少なくなっている。



# 観光地別の人口変化（京都駅周辺）

主要観光地においては人口が減少しているエリアがあったものの、京都駅周辺についてはコロナ禍以降、大きく増加している。

⇒ 観光客は「京都には来ている」ことがわかるが、従来の主要観光地以外へ来訪している可能性が考えられる。



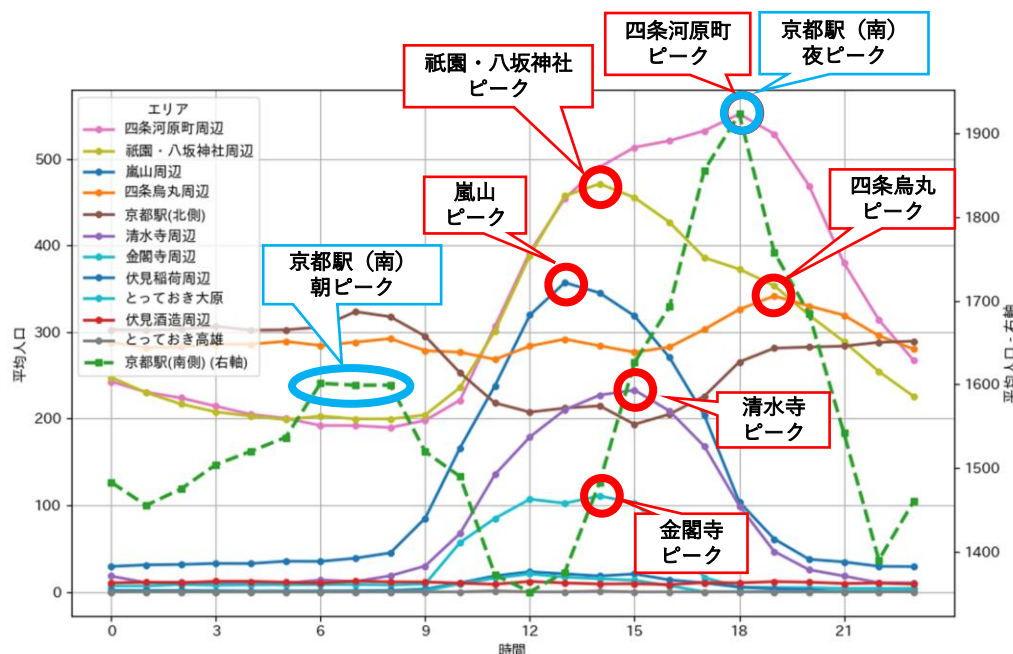
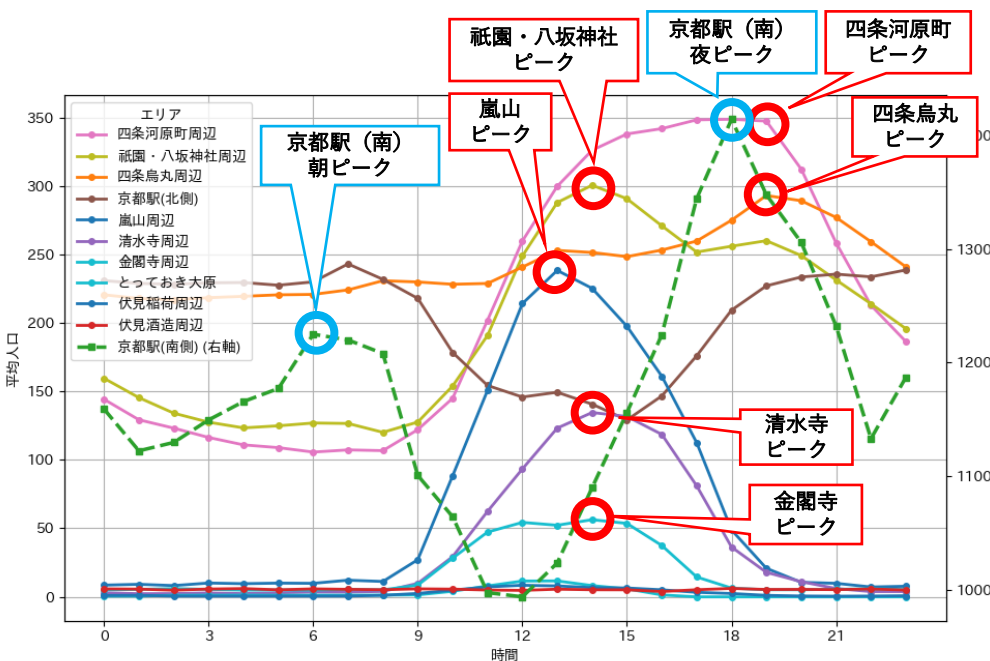
# 観光客の行動パターン【首都圏常住者】

- ・ 嵐山、祇園周辺、清水寺・金閣寺等の主要観光地については13～15時頃にかけてピークが集中。
- ・ 四条烏丸、四条河原町は18時以降にピーク。
- ・ 京都駅は観光地とは反比例し、V字型のグラフ。午前（6～8時頃）と夕方（18時頃）に分けてピーク。

○ 京都駅を起点に遠方の観光地を訪問した後、アクセスのいい四条烏丸・四条河原町に戻ってくる傾向。

2025年 観光地別平均人口（平日）

2025年 観光地別平均人口（祝休日）



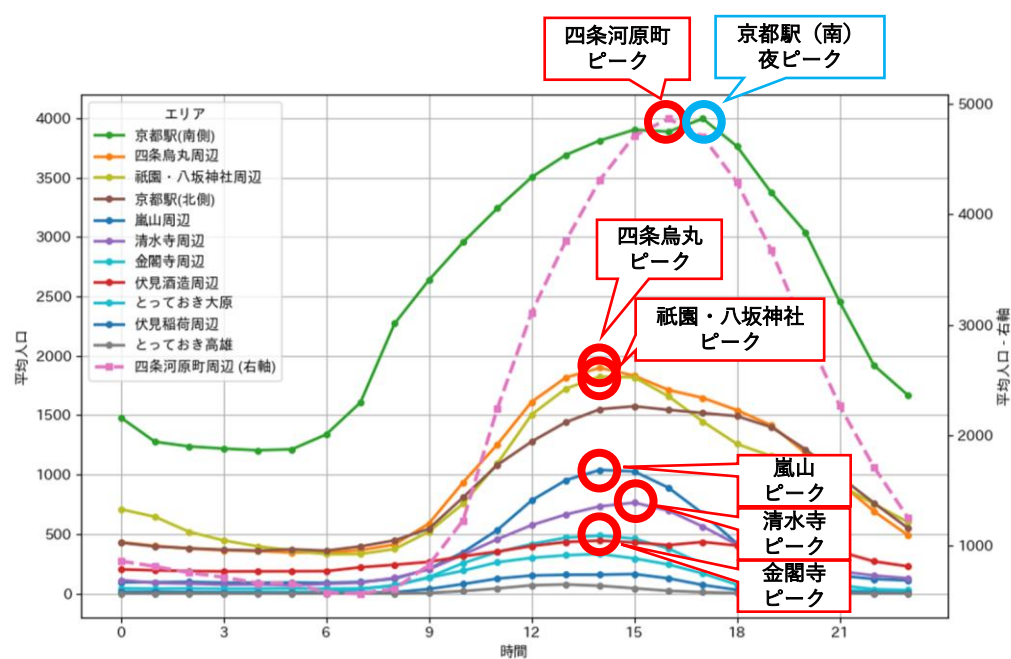
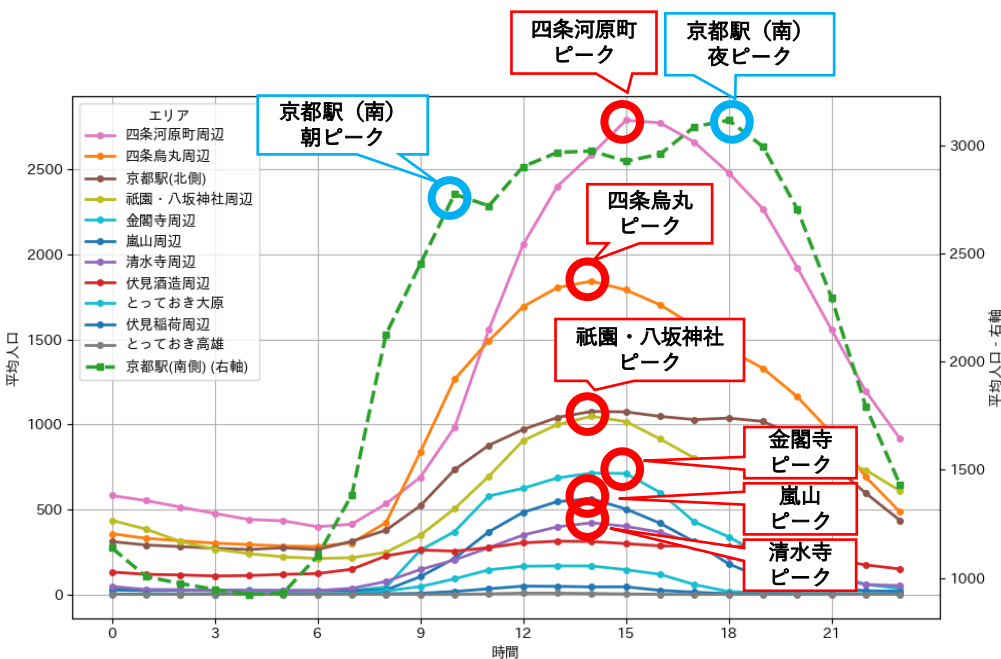
# 観光客の行動パターン【近畿常住者】

- ・主要観光地については首都圏同様14時前後にかけてピークが集中、首都圏にくらべ1時間程度遅めのピークの観光地もあり。
- ・一方で四条烏丸、四条河原町は14～16時頃にピークとなり首都圏より2～3時間早くピークが訪れる。
- ・京都駅についても首都圏のようなV字型にならず、山型のグラフ。昼間時間帯にピーク。

- 観光地は首都圏と比べ近畿は遅めに来訪。
- 四条烏丸・四条河原町、京都駅のピークが異なることから首都圏とは別の目的で来訪している可能性。

2025年 観光地別平均人口（平日）

2025年 観光地別平均人口（祝休日）



# まとめ・今後の課題

## まとめ

- ・国内観光客は2024年はインバウンドの急増等で京都観光を避ける傾向が強まり減少に転じたが、2025年春頃から増加に転じ回復傾向であることがわかった。
- ・主要観光地等においては来訪者が減少、一方で京都駅等では人口が増加している。このことから、京都に国内観光客は来ているが、自主的に分散し混雑を避けて従来の観光地以外に来訪している可能性が示唆できる。
- ・主要観光地のピークが鮮明になった。行動パターンとしては首都圏常住者は遠方の観光地ほど早めに来訪し、宿泊地や京都駅等にアクセスのいい地域へ移動する傾向があった。一方で近畿常住者は首都圏とピーク時間帯が異なる観光地があることがわかった。首都圏・近畿共通して主要観光地への来訪ピークは重なっている。

## 調査における今後の課題

訪日外国人の行動把握、分析地の拡大、年齢・性別ごとの行動パターンなどの分析は今後の課題としたい。

## 今後の展開

- ・観光分散化（時期・時間・場所の分散）・混雑緩和に資する周遊ルートや観光パターンの提案。  
（京都市の「京都朝観光・夜観光」の推進・バックアップする材料の提供）
- ・交通課題の整理・対策の検討。